

平成29年度社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会事業報告

1 報告【概要】

加速する少子高齢化や就労環境、家庭環境の変化等により、生活困窮者の増加や日常生活への影響等様々な課題が浮き彫りになる中であって、既存の制度・体制だけでなく、地域住民を巻き込んだ取り組みとして、地域包括ケアシステムの構築や生活困窮者支援制度等の改革が進められており、日常生活圏域での地域力による福祉活動への新たな展開が求められました。

一方、社会福祉法人制度改革においては、これまで以上に法人経営に対してガバナンスや財務規律の強化、事業運営の透明性の向上等を図ることとされているほか、新たに地域における公益的な事業への取り組みも社会福祉法人の責務とされ、社会福祉協議会として他の団体では困難な福祉ニーズへの対応も求められました。

地域においては、東日本大震災から6年が経過し、産業基盤やインフラの整備とともに、災害公営住宅への入居も進み、日常生活を取り戻しつつあるとはいえ、被災者のみならず地域で生活するすべての人々へのきめ細かな支援が必要とされており、仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者を含めて訪問支援を継続しつつ、地域の支え合い活動の充実により、地域住民として安心して生活を送れるよう、新たな支援への移行が求められました。

本会は、地域福祉を推進する中核的な役割を担う民間福祉団体として「誰もがその人らしく暮らすことができる地域社会の実現」のため、地域福祉活動計画の着実な実施と医療、福祉、地域等の多様な組織による地域包括ケア推進協議会でのアクションプランの推進に取り組みながら、住民参加による見守り、助け合い活動、コミュニティ構築のため、気仙沼市や関係機関、団体と連携・協働し、事業を推進するとともに、介護保険事業や障害者支援事業の安定的な運営に取り組みました。

このような中であって、昨年5月にグループホーム桑の実入居者の離設者が死亡するという痛ましい事故があったことは、安全で安心して利用していただくサービス提供事業者としてご遺族におわびするとともに、深く心に刻み事業推進することを役職員一同決意を新たにします。

2 重点目標

1 地域福祉の推進

東日本大震災による応急仮設住宅等を退去する被災者への継続的な支援に取り組むとともに、本会の地域福祉活動計画に基づき、地区社協、民生委員・児童委員、ボランティア、地域住民等と連携・協働して、地域の生活課題解決のため、小地域福祉ネットワークを基盤とした見守り・支援体制の強化を図り、新たなコミュニティ構築への支援に取り組みました。

さらに、本年度からの生活支援体制整備事業の本格的な実施に伴い、気仙沼市をはじめ、関係機関及び地域住民との連携により、日常生活圏域における多様な生活支援活動の掘り起しに努めました。

2 介護・福祉活動の拠点の整備・活用

震災により本会の活動拠点の多くが、民間施設の借用で事業を継続してきましたが、気仙沼市から無償譲渡された旧本吉老人福祉センターに一部事業所を集約し、活動拠点の一つとして整備を図りました。

また、指定管理施設の受託運営については、利用者ニーズを把握し、効率的、効果的な運営に努力しつつ良質なサービス提供に努めました。

3 人材確保・育成

現下の厳しい経済環境、雇用情勢の中で、有資格者確保のため、ハローワーク等と連携の下、潜在的な有資格者の掘り起こしと安定的な人材確保に努めました。

また、職員の更なる資質向上のための職員研修の充実と合わせ、嘱託職員の処遇改善を行い、離職防止を図りながら、新たな雇用による人材確保、育成、定着に努めました。

4 組織管理体制の強化

介護保険事業や障害者支援事業は、利用契約に基づく良質なサービスの提供と採算性の確保など法人としての経営責任や経営判断が一層強く求められることから、有資格者の確保などにより、組織体制の構築に努めました。

また、法人内の事故防止対策検討委員会や情報共有会議等を通じ、法令遵守の下、自己研さんに努め、福祉ニーズに的確に対応した施策や活動に積極的に取り組みました。

5 福祉サービス提供における「安心・安全」の確保

誰もが住み慣れた地域でより安心・安全な暮らしが送れるよう地域福祉活動計画に則り、支援を必要とする人を地域で支え合う小地域福祉ネットワーク事業を推進しました。

また、本会入所施設での離脱死亡事故を教訓として、本会施設・事業所において安心・安全に利用できるよう防災体制の整備とともに、車輛や施設等のハード面の充実と感染症予防や衛生管理等のソフト面の整備・強化を図りながら、サービス提供における「安心・安全」の確保に努めました。

6 各地域における福祉サービスの強化

地域特性を生かし、制度によるサービスだけでは解決できない福祉課題への対応のため、地区社協はじめ関係機関・団体と連携し、地域福祉の推進に取り組みました。

(1) 本所（法人全体）

地域福祉活動計画の推進を図りながら、介護保険サービスや障害福祉サービスの充実に努めるとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けたアクションプランの推進に取り組みました。

また、震災を教訓として、災害ボランティアセンターの体制整備を図るため、地区社協、ボランティア団体等と連携した研修や訓練を実施しました。

(2) 唐桑支所

地区社協と一体となって取り組む小地域福祉ネットワーク活動の推進と地区社協が行っ

ている福祉まつりや地域コミュニティの活動を支援し、福祉コミュニティづくりを推進しました。また、震災を教訓として、災害ボランティアセンターの体制整備を図るため、地区社協、ボランティア団体等と連携した研修や訓練を実施しました。

(3) 本吉支所

地域の様々な福祉課題・生活課題の解決に向けて、隣組から振興会・地域振興会単位のミニ社協、地区社協、本吉地域全体での重層的な支え合いの仕組みづくりを行い、小地域福祉ネットワーク活動を基盤とした地域福祉活動への積極的な支援に取り組みました。また、本吉地域福祉まつりをはじめとする住民交流やボランティアセンター事業、福祉教育に積極的に取り組み、みんなで支え合い、学び合う中で福祉意識の醸成と地域活動実践者となる地域人材の育成を図り、福祉コミュニティづくりを推進しました。

以下、平成29年度の事業について、報告します。

1. 法人運営事業

事業名	内 容
理事会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、理事会を中心として事業を推進しました。 ①平成29年5月26日（金）午後1時30分 出席者 理事10人【現員数15人、欠員1人】 監事2人【現員数3人】 欠席者 理事 5人 監事 1人 - 生活支援体制整備事業運営規程の制定について【同意】 - 定款の一部を変更する規程制定について【同意】 - 定款施行細則の全部を改正する規程制定について【同意】 - 役員等に関する規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 委員等の旅費弁償規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 役員選任区分規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 評議員選任規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 会員会費規程の全部を改正する規程制定について【同意】 - 経理規程の一部を改正する規程制定について【同意】 - 資金収支補正予算（案）について【同意】 ②平成29年6月13日（火）午後1時30分 出席者 理事13人【現員数15人、欠員1人】 監事3人【現員数3人】 欠席者 理事 2人 - 評議員会に提案する「次期理事・監事候補者」の選任同意について【同意】 - 事業報告及び決算について【同意】 - 社会福祉充実残額の報告について【同意】

	4 第二次資金収支補正予算（案）について【同意】 5 定時評議員会の招集について【同意】 6 職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 7 嘱託職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】
	③平成 29 年 6 月 29 日（月）午前 10 時 出席者 理事 13 人【現員数 16 人】 監事 1 人【現員数 3 人】 欠席者 理事 3 人 監事 2 人 1 会長、副会長及び常務理事の選定について【同意】 追加議案 2 事務局長の任命に伴う同意について【同意】
	④平成 29 年 8 月 30 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 理事 13 人【現員数 16 人】 監事 2 人【現員数 3 人】 欠席者 理事 3 人 監事 1 人 1 企画経営委員会委員及び地域福祉推進委員会委員の選任同意について【同意】 2 本吉支所改修工事について【同意】 3 第三次資金収支補正予算（案）について【同意】 4 評議員会の招集について【同意】
	⑤平成 29 年 10 月 16 日（月）午後 1 時 30 分 出席者 理事 13 人【現員数 16 人】 監事 1 人【現員数 3 人】 欠席者 理事 3 人 監事 2 人 1 評議員選任・解任委員会に提案する「補欠評議員候補者」の選任同意について【同意】 2 本吉支所屋根等改修工事請負契約の締結について【同意】 3 育児休業及び介護休業等に関する規程の一部を改正する規程制定について【同意】
	⑥平成 29 年 12 月 11 日（月）午前 10 時 30 分 出席者 理事 15 人【現員数 16 人】 監事 2 人【現員数 3 人】 欠席者 理事 1 人 監事 1 人 1 本吉支所屋根等改修工事請負契約に係る変更契約の締結について【同意】 2 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】
	⑦平成 30 年 3 月 19 日（月）午後 1 時 30 分 出席者 理事 15 人【現員数 16 人】 監事 2 人【現員数 3 人】 欠席者 理事 1 人 監事 1 人 1 気仙沼市市民福祉センターの指定管理の受託について【同意】 2 定款の一部変更について【同意】 3 防火管理規程の一部を改正する規程制定について【同意】 4 経理規程の一部を改正する規程制定について【同意】

	5 職員就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 6 嘱託職員等就業規則の一部を改正する規程制定について【同意】 7 本吉支所への事業所移設に伴う関係規程の整理に関する規程制定について【同意】 8 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律の施行に伴う関係規程の整備に関する規程制定について【同意】 9 平成 29 年度資金収支補正予算（案）について【同意】 10 平成 30 年度事業計画（案）について【同意】 11 平成 30 年度資金収支予算（案）について【同意】 12 評議員会の招集について【同意】 追加議案 13 気仙沼市市民福祉センター運営規程制定について【同意】 【成果】7 回の理事会を開催し、社協の運営に係る審議を行い、法人の健全経営や地域福祉事業を効果的に推進することができました。 【決算】295,398 円
評議員会の開催	【概要】地域福祉の担い手としてふさわしい事業を進めるため、評議員会を中心として事業の推進を図りました。 ①平成 29 年 6 月 28 日（水）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 24 人【現員数 31 人】 理事 3 人 監事 1 人 欠席者 評議員 7 人 1 次期理事・監事の選任について【選任】 2 定款の一部を変更する規程制定について【承認】 3 役員等に関する規程の全部改正について【承認】 4 会員会費規程の全部を改正する規程制定について【承認】 5 平成 29 年度第一次資金収支補正予算（案）について【承認】 6 平成 28 年度事業報告及び決算について【承認】 7 社会福祉充実残額の報告について【承認】 8 平成 29 年度第二次資金収支補正予算（案）について【承認】 ②平成 29 年 9 月 13 日（水）午前 10 時 出席者 評議員 18 人【現員数 31 人】 理事 3 人 監事 3 人 欠席者 評議員 13 人 1 本吉支所改修工事について【承認】 2 平成 29 年度第三次資金収支補正予算（案）について【承認】 ③平成 30 年 3 月 30 日（金）午後 1 時 30 分 出席者 評議員 24 名【現員数 30 人】 理事 3 人 監事 1 人 欠席者 評議員 6 名 1 気仙沼市市民福祉センターの指定管理について【承認】 2 定款の一部変更について【承認】

	3 平成 29 年度資金収支補正予算（案）について【承認】 4 平成 30 年度事業計画（案）について【承認】 5 平成 30 年度資金収支予算（案）について【承認】 【成果】3 回の評議員会を開催し、社協全体の事業に係る審議を行い法人の健全経営や地域福祉事業を効果的に推進することができました。 【決算】 241,857 円
監査会の開催	【概要】理事の業務執行状況及び法人の財産の状況について監査会を実施しました。 ①平成 29 年 6 月 5 日（月）、6 日（火） 午前 10 時 出席者 監査委員 3 人【現員数 3 人】 1 平成 28 年度理事の業務執行状況及び事業並びに決算監査について ②平成 29 年 11 月 15 日（水）、16 日（木） 午前 10 時 出席者 監査委員 3 人【現員数 3 人】 1 平成 29 年度上半期理事の業務執行状況及び事業並びに中間監査について 【成果】理事の業務執行の状況及び法人の財産等の状況についての監査において、事業の健全経営を図ることができました。 【決算】 179,104 円
評議員選任・解任委員会の開催	【概要】社会福祉法の改正により定款第 7 条に規定された、評議員の選任・解任委員会における評議員の選任手続きを行いました。 ①平成 29 年 10 月 26 日（木） 午前 10 時 出席者 評議員選任・解任委員 3 人【現員数 3 人】 1 補欠評議員候補者の選任について 次のとおり選任 1 号評議員 1 人 【成果】次期評議員候補者を選任することができました。 【決算】 15,705 円

【1】会員数〈会費〉

一般会費	1 5, 7 5 4 世帯（前年比 98%）	4, 7 2 6, 2 0 0 円（前年比 98%）
賛助会費	2, 5 0 3 世帯（前年比 100%）	2, 5 6 2, 0 0 0 円（前年比 100%）
特別賛助会費	4 2 法人・9 個人（前年比 100%）	4 6 5, 0 0 0 円（前年比 100%）
団体会費	1 3 団体（前年比 93%）	3 9, 0 0 0 円（前年比 92%）

【2】役員・評議員

理 事	1 6 人	平成 3 0 年 3 月 3 1 日現在
監 事	3 人	〃
評議員	3 1 人	〃

平成29年度 会費納入及び助成金交付状況

平成30年3月末現在 (単位：円)

地区社協	納 入			交 付			
	一般会費	賛助会費	特別賛助会費	活 動 費 助 成			合 計
				一般会費	賛助会費	特別賛助会費	
西	600,000 2,000	366,000 339	20,000 2	200,000	109,800	4,000	313,800 6,100
上	415,200 1,384	536,000 530	90,000 12	138,400	160,800	18,000	317,200 183,600
中央	105,000 350	0 0	10,000 2	35,000	0	2,000	37,000 33,900
魚町	83,400 278	72,000 68	0 0	27,800	21,600	0	49,400 0
南町・柏崎	33,000 110	48,000 48	70,000 7	11,000	14,400	14,000	39,400 0
南	33,000 110	28,000 24	0 0	11,000	8,400	0	19,400 0
鹿折	180,000 600	167,000 163	30,000 3	60,000	50,100	6,000	116,100 0
松岩	626,400 2,088	543,000 541	60,000 6	208,800	162,900	12,000	383,700 27,600
新月	405,000 1,350	432,000 429	95,000 10	135,000	129,600	19,000	283,600 0
階上	294,600 982	0 0	0 0	98,200	0	0	98,200 58,800
大島	270,600 902	127,000 125	40,000 4	90,200	38,100	8,000	136,300 20,000
面瀬	360,000 1,200	225,000 224	40,000 4	120,000	67,500	8,000	195,500 33,300
唐桑	562,200 1,874	13,000 11	10,000 1	187,400	3,900	2,000	193,300 0
小泉	0 0	0 0	0 0	0	0	0	0 0
津谷	440,700 1,469	5,000 1	0 0	146,900	1,500	0	148,400 0
大谷	317,100 1,057	0 0	0 0	105,700	0	0	105,700 55,500
合計	4,726,200 15,754	2,562,000 2,503	465,000 42法人9個人	1,575,400	768,600	93,000	2,437,000 392,700
							53,900 2,883,600

※下段は加入者数
※団体会員 13団体 39,000円

2. 地域福祉事業

事業名	内 容
地区社協会長会議の開催	【概要】住民参加による地域福祉活動の推進を図るため、会長会議を開催し、情報交換等を行いました。 ① 平成 29 年 6 月 20 日（火） 1 平成 29 年度会費の取りまとめ方について 2 地区社協活動（地域福祉活動）支援の取り組みについて 3 生活支援体制整備事業について 4 赤い羽根共同募金の協力方について ② 平成 29 年 12 月 21 日（木） 1 平成 29 年度歳末助け合い募金配分について 2 地区社会福祉協議会活動助成配分について 【成果】地域福祉活動支援の補助金交付事業による地区社協の支援や全国セミナー参加への周知と地域福祉活動推進に向けた具体的活動の共有をすることができました。また、地区社協間の情報交換や情報提供を行い、相互の活動状況把握ができました。 【決算】 102,544 円
地域福祉活動計画の推進	【概要】第 2 期地域福祉活動計画を進めるに当たって地域住民が地域福祉活動に主体的に参画し、地域を創っていく活動による福祉のまちづくりを推進しました。 【実績】 地域福祉活動計画推進連絡会議の開催（2 回） 地区住民懇談会の開催（11 地区社協） 地域福祉活動計画推進委員会の開催（3 回） 地域福祉活動計画推進委員会部会開催（各 1 回） 【成果】地域福祉活動計画推進連絡会議では、評価シートを作成して地域福祉活動計画推進委員会から意見・要望をいただくなど、進行管理に努めました。また、地区住民懇談会では今年度から開始された「生活支援体制整備事業」の説明を行いながら、住民同士の支え合い活動の意見交換など、小地域福祉活動の意識化や推進方法についての情報共有ができました。地区住民懇談会開催前に地区社協会長との打合せにより、地区の実情に合わせた懇談会となりました。 【課題】第 2 期計画の 4 年目になり、計画に掲げられた具体的取組みが実態に即さない場合もあり柔軟に対応しました。また、計画通りに遂行できない事業がありました。 地区の事情により懇談会が開催できない地区もありました。 【今後の取組】推進連絡会議及び推進委員会を予定通り開催し、適切な事業遂行に努めます。また、次年度は、第期計画の最終年度であることから、次期計画の策定に取り組みます。

	【決算】 387,980 円
小地域福祉活動の推進	【概要】地域の援護を必要とする方々に対し、身近な住民等ができることで支援していく活動の具体的・実践的な推進を図りました。また、地域での活動推進への補助金の交付など、活動の拡がり体制整備を図りました。 【実績】今年度からの生活支援体制整備事業が小地域福祉活動の推進とその目的が合致することから、小地域福祉活動の住民向けパンフレットの配布や社協だよりでの周知など、啓発活動に重点を置きました。 小地域福祉活動補助金交付地区社協 4 地区社協 【成果】生活支援体制整備事業において、地区社協圏域ごとに本会職員を配置したことにより、直接地域に出向く機会が増えました。それにより地域の状況把握と併せ、小地域福祉活動について直接住民に伝える機会が増えました。また、職員からの情報提供により、補助金の申請地区社協も徐々に増えています。 【課題】小地域福祉活動推進会議を設置することができませんでした。また、地域福祉推進フォーラムも計画どおり開催できませんでした。 【今後の取組】小地域福祉活動推進会議を再編し、具体的・実践的推進に向け検討を行います。また地域福祉活動推進者育成研修会等を開催しながら、様々な場面を捉えて住民の理解促進と参画できる環境づくりに努めるとともに、事業を計画的に推進しながら、地域の福祉力を高めま す。 【決算】 1,290,827 円
生活相談所の運営	【概要】住民の生活上の心配ごとや悩みごとの相談に対応するため、生活相談所を開設しました。宮城県サポートセンター支援事務所の協力の下、いつでも気軽に法律相談に対応できるよう体制整備を図りました。また、情報共有会議を開催し、社協内事業所での対応事例を取り上げ、支援策を検討して課題解決に努めました。 【実績】 気仙沼地域：毎週月、火、水、木 午前9時から午後3時 開設日 176日 相談件数 32件 本吉地域：毎週月曜日 午前9時から午前11時30分 開設日 46日 相談件数11件 情報共有会議：実施回数11回 【成果】相談の内容に応じて、傾聴や他機関の紹介、助言等を行い、相談窓口業務としての一定の役割を果たしました。日常生活における簡単な法律に関する事案については、電話やファクシミリで弁護士へ相談し、適切な助言により、即時解決する等幅広い対応をすることができました。 【課題】生活相談所の機能の活性化とともに、身近な住民課題を拾い上

	げる役割を担える体制づくりに努める必要があります。 【今後の取組】社協事業所と連絡調整し、交流会等の場等で相談できる仕組みをつくり、生活相談所の活性化に繋げます。 【決算】1,491,095 円
広報紙の発行	【概要】広報紙「気仙沼市社協だより」を6回発行（4、6、8、10、12、2月）し、全戸（応急仮設住宅含む。）と関係機関に配布しました。また、「本吉支所だより」を6回発行（5、7、9、11、1、3月）し、本吉地域の全戸に配布しました。情報提供とともに住民の地域福祉活動への参加を促進する啓発活動に努めました。 【成果】住民活動の紹介や地域企業の社会貢献活動、社協の事業の周知ができました。 【課題】広く地域情報を提供するため、地域行事等への積極的な取材が必要です。また、地域企業の社会貢献活動について、更に情報収集を進める必要があります。 【今後の取組】広報紙及びホームページを活用し、幅広い情報提供に努めます。 【決算】1,594,160 円
子育て支援交流事業 （こどもわくわく広場）	【概要】子どもの遊び場をメインとし、関係機関や地域ボランティア、民生委員等の協力を得て、子どもが楽しい時間を過ごすことで、家族や地域がそれぞれの役割を考えるきっかけづくりと子育て世代が地域の一員として安心した生活が送れるような環境づくりを目的に開催しました。 【実績】日 時 11月5日（日）午前10時～午後2時 会 場 市社協本所 駐車場 参加者 約350人 【成果】外で遊ぶ機会が少なくなっている子どもたちが物づくりやミニバスケット等元気にのびのびと過ごすことができていました。また、社協と接点の少ない子育て世代の方々に、社協や主任児童委員等のほか様々な団体や関係機関を知ってもらう良い機会となりました。 【課題】初めての試みということもあり、遊び場がメインのイベントとなりましたが、子どもが楽しく遊ぶ機会の中にも違った視点をプラスした事業として企画する必要があります。 【今後の取り組み】様々な機関と連携しながら、地域づくりに繋がるような事業展開を行います。 【決算】222,488 円
高齢者交流事業 （レンジでチン）	【概要】地域福祉事業の一環として、食生活が偏りがちな男性高齢者を対象に、電子レンジを使った安心・安全で簡単な調理方法を紹介し、健康で自立した生活を送ってもらうためのきっかけづくりを目的に開催しました。

	【実績】 日 時 3月15日(木) 午前10時～午後1時 会 場 市民福祉センター「やすらぎ」 参加者 12人 【成果】 ボランティアと職員が終始楽しく会話しながら、電子レンジだけで(若干包丁は使ったが)美味しい料理が作れ、楽しく食事ができました。今後も実施してほしいなどの声も多く聞かれ、有意義な企画となりました。 【課題】 実施時期と協力団体の検討などが必要です。 【今後の取組】 様々な協力団体と連携しながら、地域づくりに繋がるような事業企画を行います。 【決算】 42,112 円
本吉地域福祉まつり	【概要】 住民が楽しく主体的に集うことにより、福祉を身近に感じ、考えてもらう場とし、さらには、地域でのふれあいと支えあいが一層深まっていくことを願って開催しました。 【実績】 日 時 7月9日(日) 午前10時30分～午後3時 会 場 本吉総合体育館、本吉公民館 参加者 約600人 【成果】 例年6月末開催を会場の関係で7月開催としましたが、好天に恵まれ、午後も時間イベントによる参加企画を多くしたことで盛会裏に終了することができました。一日の流れを来場者の動線を検討し、午後にも連続集客イベントを組み込みいつの時間帯に来場しても楽しめるよう意識して企画しました。実行委員会での様々な意見や提案により充実した内容になりました。午後はお祝い事を意識した餅まきを初めて企画実施したことで大勢の来場者が閉会まで楽しむことができる等集客に一定の効果を上げることができました。 【課題】 短期間での企画となりお楽しみの部分が多く、本来の福祉まつりの在り方の再確認が必要です。また、楽しみながら福祉を身近に感じてもらえる場として子供向けの企画は大盛況でしたが、大人向のイベントは展示パネルを含めて工夫が必要であり、多くの世代を巻き込んで地域福祉を考えてもらえる機会として企画する必要があります。 【今後の取組】 福祉教育の一環である福祉まつりは、住民が様々な形で福祉に触れる良い機会となるため、今後も参加と運営に関わることができるよう、福祉への理解と併せて人と人との繋ぐ機会であることを強く意識し、計画的に実施していくこととします。また、社協としての地域福祉活動を一年間実施した集大成としての福祉まつりであることを意識して企画実施していきます。 【決算】 269,201 円
本吉地域ひまわり会交流事業	【概要】 ひとり暮らしの高齢者の孤独感解消と相互交流の場を提供することを目的にボランティア団体等の協力を得て実施しました。

	【実績】 7月25日（火）参加者26人 協力ボランティア1団体 12月16日（土）参加者32人 協力本吉響高等学校 協力ボランティア1団体 1月29日（月）参加者37人 協力ボランティア1団体 3月13日（火）参加者34人 協力ボランティア1団体 【成果】南部地域包括支援センター職員の健康チェックを取り入れることにより、参加者の健康状態が確認できました。また、大谷学童保育や津谷幼稚園、本吉響高等学校の協力を得たことで、参加者同士だけではなく世代や地域間の交流を図ることができました。 【課題】参加案内を工夫しているものの参加率は対象者の1割程度と低い状況にあり、周知方法に加え事業内容の大幅な見直しをしていく必要があります。 【今後の取組】事業内容について、複数年かけて徐々にもてなすだけでなく、参加者も一緒に行えるような企画へ変更していき、対象者が参加してみたいと思える企画立案により参加率向上に努めます。 【決算】258,295 円
善意銀行の運営	【概要】市民からの多様な善意の預託を受け、その善意を効果的に地域生活支援及び住民参加による地域福祉の増進に資するよう効果的な活用に努めました。 【実績】預託 金銭52件 2,636,026円 物品11件（タオル、絵本、米、ひな人形、介護用品、ランドセル、食品等） 払出 金銭52件 2,636,026円 物品 7件（タオル、絵本、米ひな人形、介護用品等） 【成果】寄付者の意向に沿い、地域の団体等への効果的な払い出しができました。 【課題】善意銀行への寄付者が預託される金額や物品の内容によっては、払出先に事前に確認を行うなどの配慮が必要です。 【今後の取組】速やかな事務処理に努めるとともに、必要に応じ広報による周知を行っていきます。 【決算】2,637,256 円
地区社協活動費助成事業	【概要】地区社協が実施する地域・在宅福祉に関わる事業活動に関する補助金を交付し、小地域の福祉活動を推進しました。 当該地区普通会費納入額の 1／3 相当額 " 賛助会費納入額の 3／10 相当額 " 特別賛助会費納入額の 2／10 相当額 【成果】補助金の交付により、地区事業の推進に対し支援することができました。 【課題】一般会費は、微増ながら回復傾向にありますが、賛助会費や特

	別賛助会費への理解を求める活動が必要です。 【今後の取組】安定した財源確保に併せ、会費を有効に使う手法の検討とともに、地区社協と市社協が一体となり事業の見える化を図ることにより新規の会員を増やしていくことに努めます。また、災害公営住宅入居や防災集団移転等が本格化していることから、より一層住民の理解促進に努めます。 【決算】2,437,000 円
屋内ゲートボール場の運営	【概要】気仙沼市ゲートボール協会に管理運営を委託し、ゲートボールを通じて子どもから高齢者まで幅広い市民の健康増進を図ることができました。 【実績】開場日216日 利用者延べ2,457人 【成果】市内に点在していたゲートボール場が激減している中で、常設かつ全天候型の競技場として、市民のスポーツ振興の一助となっています。また、隣接するテニスコート利用者の休憩場所として、クラブハウスを貸し出す等、施設の有効活用に努めました。 【課題】全天候型施設として、雨天時などゲートボール以外の屋内施設の活用に関して、競技場管理の視点からの活用可能条件等をゲートボール協会と協議を行ない、条件整備を図る必要があります。 【今後の取組】施設外観の経年劣化が進んでおり、計画的に修繕の検討を行ないながら、施設の有効活用を図ります。また、健康増進の一助になるよう、引き続き気仙沼市ゲートボール協会との連携協力を進めながら管理運営に努めます。 【決算】883,674 円
社会福祉大会の開催	【概要】地域社会の生活課題の解決に向けて、地域住民、社会福祉関係機関・団体が協力し、地域福祉の推進に取り組むことの重要性を再確認するとともに、永年に亘り社会福祉の発展にご尽力をいただいた方々を表彰し、感謝の意を表しました。 【式典】表彰状 特別表彰 3人 社会福祉施設功労者 56人 社協功労者 102人 福祉団体功労者 28人 永年勤続功労者 73人 ボランティアグループ・個人 9団体14人 社会福祉事業功労者 1団体 感謝状 個人 37人 団体・企業 41団体 市社協特別賛助会員 43法人・4人

	【記念講演】 演題「明日の地域と暮らしを創るのは私たち」 ～地域福祉の実現に向けて 一人ひとりができることから～ 講師 東北文化学園大学 医療福祉学部教授 豊田正利氏 【成果】地域福祉の課題を地域の支え合い活動の充実により、地域住民と一体となり取り組み解決して行くことを再確認できました。 【今後の取組】震災により9年振りの開催となりましたが、今後は、5年ごとに開催してまいります。また、社会福祉大会が開催されない年次における表彰については、適宜に行ってまいります。 【決算】1,469,668 円
--	---

3. ボランティアセンターの運営

事業名	内 容
ボランティア相談・調整等事業	【概要】ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアの相談・ニーズの受付・調整・派遣とともに、ボランティアの育成・啓発を推進し、相互理解と互助によるボランティア活動の機運の醸成に努めました。 【実績】ボランティア相談 13件 調整 10件 被災者支援関係 災害ボランティア相談・問合せ 3件 生活支援ボランティア相談・問合せ 29件 調整 45件 【成果】ボランティア活動希望者の相談に応じ、ボランティアの育成・啓発の推進に努めました。 【課題】活動日直前のボランティア活動の依頼や、ボランティアの活動希望内容と依頼者のニーズの違い等により調整が難航することがあります。 【今後の取組】ボランティアの育成・啓発に努め、活動者の増を目指します。 【決算】693,891 円
災害ボランティアセンタースタッフ養成講座	【概要】近年の局地的な大雨や大地震等による災害に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営や生活復興のための支援について、被災者に寄り添いながら、迅速かつ適切に対応できる災害ボランティアセンタースタッフの養成を目的に開催しました。 【実績】実施日：2月24日（土） 参加人数：27人 【成果】災害ボランティアセンターの運営について、体験を交えて学習

	しました。参加者のセンターへの理解と防災意識の向上を図ることができました。 【課題】地区社協や自主防災組織、NPO 等に案内文書の送付のほか、地元紙への記事掲載等による参加者を募集しましたが、参加者の増には繋がりませんでした。 【今後の取組】災害の発生に備え、内容や開催方法を検討し、今後も継続して実施していきます。 【決算】244,310 円
ボランティアスクール	高校生ボランティアスクール 【概要】おもちゃ図書館を通じて子育て中の家族と触れ合うことにより福祉に対する理解を深め、ボランティア意識の啓発を図ることを目的に開催しました。 【実績】開催日 8月3日（木） 実施場所 気仙沼市松岩公民館 参加人数 ボランティア 13人 【成果】たばしね学園の協力の下、おもちゃ図書館を開催しました。児童とのふれあいを通して様々な発見や気づきを得、将来の進路を考える上での一助となりました。 【課題】夏休み中の開催は部活動の行事等と重なり易く、参加者が少ない現状にあります。また、小・中学生のボランティアスクールについては日程の調整がつかず、開催できませんでした。 【今後の取組】開催時期のほか、他事業と連携し学生が福祉やボランティア活動などに触れ、学習する機会について検討していきます。また、児童生徒が興味を持つテーマ等を取り上げ、参加しやすい環境づくりに努めます。 【決算】248,909 円
ボランティア保険の加入	【概要】ボランティアの方々が安心して活動できるよう、ボランティア保険の加入手続きを行いました。 【実績】加入者 1,341人（前年度1,478人） うち、ボラ保険掛金一部助成を受けた方 733人 （前年度 730人） 事故報告件数 0件 【成果】安心してボランティア活動ができる環境の整備に努めました。 【課題】保険を利用するための事故報告はありませんでしたが、事故発生時に備え、保険の活用について周知する必要があります。 【今後の取組】ボランティア保険の加入促進及び事故発生時の保険の活用についての周知に努めます。 【決算】243,108 円

知的障がい者支援ボランティア養成講座	【概要】知的に障がいのある方々を地域で見守るボランティアの育成を目的として全2日コースで開催しました 【実績】1日目 開催日：12月2日（土） 場 所：本吉公民館視聴覚室 参加人数：25人 2日目（現場体験として協力団体等を選択式で開催） ① 協 力：本吉絆つながりたい 開催日：12月10日（日） 場 所：津谷松尾コミュニティセンター 参加人数：9人 ② 協 力：気仙沼市みのりの園 開催日：12月13日（水） 場 所：気仙沼市みのりの園 参加人数：4人 ③ 協 力：NPO法人セミナーレ「ほっぷ」 開催日：12月24日（土） 場 所：ほっぷ 参加人数：6人 【成果】高校生をはじめ、地域の方々に知的に障がいのある方への理解を深める機会となり、地域と施設や団体を繋ぐ機会になりました。 【課題】今年度初めて取り組んだ事業のため、住民への事業浸透率は低い状況にあり、今後地域で見守る体制の整備を図るため、周知方法等を検討する必要があります。 【今後の取組】周知方法を検討しながら、少しでも多くの人へ知的障がいについての理解が広まっていき、地域での見守りに繋がるよう事業を継続していきます。
----------------------------------	---

4. 福祉教育

事業名	内 容
福祉教育活動費補助金交付事業	【概要】気仙沼市内の小中高等学校に対し、継続した福祉教育・ボランティア学習への支援として、一校につき年額15,000円を上限に補助金を交付しました。 【実績】 補助校数：小学校 5校（前年度 5校） 中学校 3校（前年度 2校） 高等学校 2校（前年度 1校） 交付金額：144,826円（前年度 120,000円）

	【成果】市内の小中高等学校に周知をしたところ、10校からの申込みがありました。申し込み内容としては、主に高齢者福祉と障害者福祉に狙いを絞ったものが多いように見受けられます。 【課題】申請期間を年度内とし、既に実施済みの事業にも範囲を広げ周知しましたが、申請数は昨年度から横ばいとなっております。 【今後の取組】補助金額の引き上げや補助金の内容等を分かりやすくまとめたチラシを作成し周知を図るとともに、補助金に対する意見を募集する等により、利用しやすい仕組みづくりに取り組みます。 【決算】133,390円
行事参加協力調整事業 (高校生ボランティア等の活動調整)	【概要】市内の福祉施設等から高校生ボランティアの派遣を依頼された際に、市内の高等学校等の協力を得てボランティアを募りました。 【実績】 気仙沼支援学校 運動会 17人 3校(前年度 11人 2校) 八日町お日市まつり(4日間協力) 述べ69人(市内4校) 宮城県難病支援センター 医療講演会 5人(ボランティアフラワーメイト) 松峰園 松峰祭 12人 3校(前年度 9人 2校) 気仙沼支援学校 学校祭 12人 3校(前年度 18人 3校) 【成果】高校生にボランティア活動の場を提供できました。 【課題】少子化や依頼先の学校行事との兼ね合い、既に別の団体からのボランティア依頼を受けている等の理由から、依頼を断られるケースが増えています。 【今後の取組】他事業と連携し、ボランティアについての理解を深めるよう広報啓発等に努め、活動者の増を図ります。
24時間テレビ街頭募金協力	【概要】24時間チャリティ募金活動を通して、幅広い年代層に対し、募金への理解を図りました。 【実績】 開催日 8月27日 募金場所 イオン気仙沼店 スーパー片浜屋はまなす店 協力者 高校生ボランティア 39人(市内 5高校) 【成果】市民の方々の募金へのご理解とご協力を頂きました。 【課題】開催時期が気温の高い季節であり、熱中症が心配されます。ボランティア参加者への適切な休憩・水分補給の徹底を呼びかけます。 【今後の取組】幅広い年代層に対し、募金への理解を図ります。
福祉教育・企業・団体への職員派遣事業	【概要】学校からの福祉教育体験授業への職員派遣の依頼に基づき、社協職員等を派遣しました。実施方法や派遣職員については、先方の要望に応じて協議の上で行いました。 【実績】 依頼団体 : 小学校 延べ6回(5校) : 中学校 延べ4回(2校) 内容 : 高齢者体験、車いす体験、視覚障害体験、点字

	体験、手話等の聴覚障害体験 対応 : 社協職員、他団体職員、ボランティア 【成果】外部から協力を得ながら、高齢者や障害についての理解を深め、福祉意識の向上に繋がる機会を提供することができました。 【課題】体験だけで終わることなく、体験から当事者との交流や実践に繋げること、講師や協力者の確保は引き続きの課題となっています。 【今後の取組】実施依頼時に、学校側との企画検討の打合せを行なう等、丁寧な支援を心掛けます。また、市内の福祉団体、関係機関等と連携しながら取り組みます。 【決算】 117,766 円
敬老作文募集事業	【概要】敬老をテーマにした作文に取り組むことで児童が高齢者への理解を深め、敬老の心を培うことを目的に市内の小学校に作文を募集し、元教員、児童福祉関係者等による審査により、最優秀 7 点、優秀 18 点を選びました。 受賞作品については、社協だよりのほか、学校や企業の協力を得て地元新聞への掲載やK-ネットにおいて受賞児童の作文朗読出演に加え、敬老作文集を作成し、関係者に配付しました。 【実績】 応募学校数：市内 16 校 応募総数（学校への提出作品）：161 点 各学校からの選考作品数（審査対象作品）：64 点 受賞作品総数：25 点 【成果】児童数が減少している中であって、作品の応募総数が増加傾向にあります。また、作文に取り組むことで高齢者に対する理解やいたわりの気持ちを養うことができました。 【課題】今後も教育委員会、小学校と相談しながら事業推進に努めます。 【今後の取組】敬老の心を培う一助となるよう事業を継続します。 【決算】 263,644 円

5. 資金貸付等事業

事業名	内 容
生活福祉資金貸付事業	【概要】資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立と生活意欲の助長促進並びに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送ることができるよう資金の貸付や相談支援を行いました。 また、償還金の滞納者に対しては、宮城県社会福祉協議会と共同で督促相談会を実施し、貸付世帯の実態把握と償還への働き掛けを行いました。 【総貸付件数】 62件 37,865,691円 【実績】 福祉資金 2件 1,165,000円 緊急小口資金 1件 60,000円 【成果】民生委員と連携し、必要な資金の貸付を行うことができました。また、新たな生活課題が発生した貸付世帯や償還滞納世帯については、自立相談支援機関に繋ぐ等生活再建に向けた足掛かりとなりました。 【課題】県外転出者や長期滞納者の対応が課題となっています。また、生活困窮世帯は、単に貸付を行うだけでは解決できない複合的な課題を抱えている世帯が多いことから、自立相談支援機関等とより一層連携した支援が必要となっています。 【今後の取組】宮城県社協や自立相談支援機関と連携し、世帯の自立支援に努めます。 【決算】7,075,525円
生活福祉資金貸付金督促相談会	【概要】宮城県社会福祉協議会と共同で償還金の滞納者を対象に督促相談会を実施し、世帯の実態把握と償還への働き掛けを行いました。 【開催日】平成29年12月 7日（木） 対象者4人 平成29年12月11日（月） 対象者1人 【成果】世帯の状況把握と滞納理由について、借受人、県社協、市社協の三者で確認し、償還計画の変更を行う等償還への働き掛けを行うことができました。 【課題】三者で面談し、状況に応じた償還計画の変更を行なっても、償還に繋がらない対象者もいることから、引き続き償還への働き掛けを行う必要があります。また、面談にも応じず連絡不能な貸付者への対応が課題となっています。 【今後の取組】宮城県社会福祉協議会と連携し、今後も定期的に相談会を実施し、償還への働き掛けを行います。
生活安定資金貸付事業	【概要】低所得世帯に対し、緊急に必要な生活資金の貸付を行うことにより、その世帯の自立更生を援助し、生活の安定に資することを目的に小口の貸付を行いました。 【総貸付件数】 29件 1,138,000円

	(年度内償還完了者 13件 408,000円) 【実績】29年度貸付件数 9件 380,000円 【成果】一時的に資金貸付の必要が生じた世帯に対し、迅速に対応し世帯の生活安定を図ることができました。また、自立相談支援機関を利用している世帯に対しては、相談支援機関と連携しながら世帯の自立支援に努めることができました。 【課題】県外転出者や長期滞納者の対応が課題となっています。 【今後の取組】担当民生委員と連携し、生活実態の把握に努め償還への働き掛けを行ないます。 【決算】393,110円
--	---

(震災対応事業)

生活復興支援資金貸付事業	【概要】東日本大震災により被災した低所得世帯に対して、当面の生活費や転居費用、住宅補修費等の必要な資金を貸し付けるものです。 【総貸付件数】 52件 50,940,887円 【貸付件数】 49件 30,799,776円 【実績】 貸付件数 なし (震災から7年が経過していることで、震災に起因したものかどうかの判断が難しく申込みにつながるケースが少ない状況にあります。) 【課題】償還期限内ではあるが、貸付金の償還に遅れが生じている世帯の生活実態を把握し、償還と合わせ、世帯の自立に必要な支援に取り組む必要があります。 【今後の取組】民生委員と連携し、世帯の生活状況を把握するとともに、自立相談支援事業所等関係機関と連携し、世帯の自立に向け支援します。
特例緊急小口資金貸付事業	【概要】東日本大震災当時被災された世帯で、当座の生活費を必要とする世帯に対し、震災対応の特例措置として緊急小口資金を貸し付けました。(貸付は、平成23年5月をもって終了しています。) 既に、償還期限が経過していることから、償還滞納となっている世帯に対し、電話や訪問等により生活状況の把握と償還への働き掛けを行いました。 【総貸付件数】 702件 101,965,000円 【貸付件数】 243件 26,748,890円 【課題】県外転出者や長期滞納者の対応が課題となっています。 【今後の取組】宮城県社会福祉協議会と連携しながら、今後も転居先の調査を行うとともに、引き続き電話や自宅訪問を行いながら生活実態の把握に努める等償還に繋がるよう働き掛けを行うとともに、償還指導対策の強化に努めます。

6. 援護活動

事業名	内 容
災害見舞金等贈呈事業	【概要】住宅火災に対し、世帯状況により災害見舞金の贈呈を行います。 【実績】なし 【課題】社会福祉事務所からの情報を基に贈呈対応手続を行っていることから、発災から贈呈までの時間が必要となります。 【今後の取組】より迅速に見舞金の贈呈ができるよう検討を進めます。
歳末たすけあい募金配分事業	【概要】住み慣れた地域で暮らしていくために必要な様々な支えあい活動が展開できるよう、地区社協をはじめとした地域活動等へ配分しました。 【実績】配分委員会：平成29年12月19日開催 収入額合計：7,439,751円 (内訳：募金4,539,751円、市補助金2,900,000円) 【成果】配分要綱に基づき、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分に加え、地区社会福祉協議会が実施する福祉活動への助成配分、障害福祉施設等への活動助成配分、新入学児童への安心・安全の支援への配分、子育て支援団体等への活動助成配分を行いました。また、震災以降に未実施となっていた安心カードの作成や生活困窮者支援事業など、事業の目的達成のための配分事業も計画に基づき実施することができました。 【課題】個別対象者への配分については、在宅長期寝たきり者と長期入院者への配分としました。民生委員児童委員の協力による世帯把握努めましたが、生活困窮世帯等をすべて把握することが困難な状況でありました。しかしながら、引き続き対象世帯把握のための方策について研究する必要があります。 【今後の取組】民生委員児童委員や地区社協との連携を強化しながら、地域の状況把握に努め、地域のニーズと募金趣旨に沿えるような配分を検討します。 【決算】8,922,758円
交通・海難等遺児に対する就学支援費の支給事業	【概要】交通事故、海難事故、労働災害及び病死（不慮の事故を含む。）により扶養していた父母の一方又は双方が死亡した満18歳以下の高校在学までの者に対して、民生委員児童委員を通じ、就学支援費を支給しました。 【実績】遺児家庭 29世帯 遺児数 44人 贈呈金額 396,000円 (高校生 10,000円×28人、 中学生 8,000円×12人、 小学生 5,000円×4人) 【成果】遺児とその家族との対面での支援を通じ、相談しやすい環境づくりができました。また、民生委員児童委員が欠員の地区については、他

	地区の民生委員児童委員の協力を得て対応しました。 【課題】対象者の転居等により追跡調査が難しいケースがあります。 【今後の取組】民生委員児童委員による対面での支援を行い、相談しやすい環境づくりに努めます。 【決算】450,094 円
--	--

7. 生活支援・障害福祉事業

事業名	内 容
福祉サービス利用援助事業 気仙沼・南三陸地域福祉サポートセンター（まもりーぶ気仙沼・南三陸）	【概要】認知症，知的障害，精神障害等の何らかの理由で判断能力が不十分な方が，住み慣れた地域で生活を送ることができるよう日常的な金銭や書類管理，訪問を通じてその方の生活を見守り，個人の権利を擁護しながら，日常的な生活の自立支援対策として事業を実施しました。 【実績】利用者52人（うち認知症20人，知的障害者16人，精神障害者11人，その他5人） 【成果】相談件数は年々増えており，高齢者や障害のある方の生活を支える事業として定着しつつあります。支援計画に基づいた，日常的な金銭や書類管理のサポートを行いながら定期的に訪問することで，地域での生活を支援することができました。また，証書等については，市内金融機関の貸金庫に預けることで財産を保全することができました。 【課題】知的障害者，精神障害者の利用者数が増加し，これまで半数以上であった認知症の利用者数を上回り，専門的な関係機関との調整が必要とされるケースが増えています。また，親族のサポートが困難なケースや判断能力が低下したことで，成年後見制度に繋がるケースが増え，これまで以上の他機関との連携・協働が必要となっています。 【決算】8,084,317 円
コープフードバンク事業	【概要】みやぎ生協との協定により飲食物の提供を受け，緊急時の生活支援の一助として生活困窮者への食料支援を行いました。本会における資金貸付相談者のほか，行政や自立相談支援機関から依頼があった困窮者へも食料支援を行いました。 【実績】35件 【成果】一時的に生活困窮となっている世帯に対して，食料を提供することで他の支援までの繋ぎとして食の確保ができました。 【課題】次の支援までの繋ぎとして食料提供していますが，複数回食料支援を求めてくる方もおり，他の制度との調整が必要なケースがあります。 【今後の取組】世帯の課題を見極めながら，必要に応じて関係機関に繋げるなど生活の立て直しに向けた支援に努めます。

視覚障害者との交流事業	【概要】 交流会時の当事者の声を基に、お出掛け交流会を実施しました。日頃、外出機会の少ない視覚障害者の方々の運動機能低下の抑止と気分転換を図るとともに、ボランティア等と交流をすることで相互理解を深めることができました。 【実績】 開催日：6月25日（日） 場所：岩手県大船渡市 碁石海岸（国立公園） 参加人数：24人 視覚障害者：11人、ボランティア等：13人 協力団体：1団体 【成果】 園内を自由散策しながら思い思いの時間を過ごすことで、楽しみながらリフレッシュできたようです。また、昨年度開催したガイドヘルパー養成講座生が何人かボランティアとして参加したことで、ボランティアの確保が十分にでき、安心して事業の実施ができました。 【課題】 開催時期の検討が必要です。 【今後の取組】 事業趣旨、実施内容の見直しを行いながら、関係機関と連携し、交流事業を継続します。 【決算】 125,473 円
ガイドヘルパー派遣事業	【概要】 視覚障害者の社会生活範囲の拡大と福祉の増進を図ることを目的に、視覚障害者介添人（ガイドヘルパー）の派遣を行いました。また、ガイドヘルパー養成講座を開催し、ガイドヘルパーの育成に努めました。 【実績】 活動延人数 44人（前年度 45人） 依頼件数 35件 実人数4人・2団体（前年度 39件） 【成果】 個人利用では通院、団体利用では会議や行事などを中心に利用がありました。また、視覚に障がいのある方へのボランティア講座を開催し、新たに10人の方に登録いただきました。 【課題】 仙台等の遠方への活動依頼の場合、対応できる方が少なく依頼に対応できない場合もあります。 【今後の取組】 ガイドヘルパーへのフォローアップを行い、活動者の育成に努めます。 【決算】 223,791 円
録音サービス事業	【概要】 地域のボランティアである「朗読奉仕あいの会」や「朗読奉仕会」・「本吉響高校生徒」の協力を得て、「広報けせんぬま」・「社協だより」等の朗読を録音し、市内の視覚障害者の方へ送付しました。 【実績】 発行回数 気仙沼 24回 利用者数 19人 本吉 24回 利用人数 2人 【成果】 視覚障害者の方へ、スムーズな情報提供が出来ました。 【課題】 カセットテープからCDへの移行が難航しており、デジタル録音図書にとらわれない方法の検討が必要です。また、常に利用者が聞きやすいテープの作成を心掛けることが大切です。

	【今後の取組】継続して情報の提供を行います。また、カセットテープからCDへの移行について検討します。 【決算】1,353 円
点訳サービス事業	【概要】市内のボランティアの協力を得て、依頼を受けた資料を点訳しました。 【実績】点訳依頼件数 1 件（前年度 1 件） 【成果】点訳資料の作成により、視覚に障がいのある方へ円滑な情報の提供を図ることができました。 【課題】現在、市内に点訳ボランティアが1人しかおらず、安定したサービス提供が難しい状況にあります。 【今後の取組】今後とも継続して情報提供を行うとともに、点訳ボランティアの育成に努めます。 【決算】4,783 円
視覚に障がいのある方へのボランティア講座	【概要】外出を手引きサポートするガイドボランティアについて学習し、一人でも多くの方が視覚障害を正しく理解して、気軽に声をかけ支援できる環境づくりとボランティアの裾野を広げることを目的として開催しました。 【実績】 開催日 : 7月27日(木) 8月8日(火) 8月18日(金) 場 所 : 中央公民館 松岩公民館 参加人数: 28人 【成果】宮城県視覚支援学校の協力をいただきボランティア講座を3日間開催し、10人の方にガイドヘルパー登録をしていただきました。 【課題】登録いただいた方を活動に繋げていく取組が必要です。 【今後の取組】登録いただいた方の活動に繋がるよう、フォローアップ等に取り組みます。 【決算】90,395 円